

# Protozoology Newsletter

## May, 2010

日本原生動物学会会報 (No. 18) URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jsproto/>

第43回日本原生動物学会大会(水戸)のご案内(第1報)  
 第42回日本原生動物学会 石巻大会報告  
 平成21年度 奨励賞受賞者コメント  
 平成21年度大会 Best Presentation Award 受賞者コメント  
 平成21年度 海外助成金受給者 国際学会参加報告  
 日本分類学会連合 第9回総会報告  
 若手の会通信  
 原生動物学関連の学会開催情報  
 事務局からのお知らせ



### 第43回日本原生動物学会大会(水戸)のご案内(第1報)

大会長 三輪 五十二 (茨城大学 理学部)

1. 会期 2010年11月5日(金)～11月7日(日)
2. 会場 茨城大学 理学部 (予定)
3. プログラム
  - 11月5日(金) 13:00～18:00 若手の会, 評議員会, 若手・評議員合同懇親会(予定)
  - 11月6日(土)
    - 09:00～15:00 一般講演(口頭発表およびポスター発表)
    - (12:00～13:00 昼食休憩)
    - 15:00～18:00 総会, 学会賞・奨励賞授与式, 受賞者講演, シンポジウム等
    - 18:30～20:30 懇親会(水戸芸術館内レストランを予定)
  - 11月7日(日) 09:00～15:00 一般講演, シンポジウム(予定)
4. 大会参加費等 大会参加費、懇親会費、学会費は、大会当日、受付にてお支払いください。
 

大会参加費:	一般会員 3,000円	学生会員 1,000円
懇親会費:	一般会員 6,000円	学生会員 4,000円

5. 申し込み 参加と発表の申し込み締切は、2010年9月30日(木)です。詳細は次号のニューズレターでお知らせします。
6. 発表 液晶プロジェクターを用いた口頭発表またはポスター発表で行ないます。発表演題数により発表方法の変更をお願いする場合があります。発表者は会員に限りません。
7. 宿泊 水戸市内や水戸駅周辺に各種ホテルがありますので、各自ご予約ください。懇親会場から徒歩圏内にスーパーホテルなどもあります。詳細は第2報でお知らせします。
8. 大会事務局 〒310-8512 水戸市文京 2-1-1 茨城大学理学部 第43回日本原生動物学会 大会事務局 大会長 三輪 五十二  
Tel : 029-228-8440  
E-mail : miwa@mx.ibaraki.ac.jp  
準備委員会委員: 菅井 俊郎, 北出 理, 涌井 茜, 小林 啓
9. アクセス 常磐線水戸駅下車。水戸駅からは茨城大方面のバスが出ています。東京駅八重洲口3番乗り場から茨城大学経由水戸駅行き的高速バスも出ています。詳細は第2報でお知らせします。

### 第42回日本原生動物学会 石巻大会報告

大会長 芳賀 信幸 (石巻専修大学 理工学部)

日本原生動物学会の第42回大会は2009年10月30日(金)から11月1日(日)までの3日間、石巻専修大学(石巻市)で開かれました。参加費納入参加者は80名で、35題の一般講演と2つのシンポジウム、および関連集会として若手の会ワークショップと若手の会勉強が行われました。

今大会では、外国人研究者による特別講演が廃止となりましたので、すべての発表を口頭で行うこと、発表時間12分と質疑応答時間3分を確保すること、また、昨年から始まった若手研究者の発表に対する Best Presentation Award (BPA) 対象講演を全て大会第一日目に行うことの3点を基本方針としてプログラムの作成に取り組みました。

一般講演は35題中27題がBPA対象講演でした。これは、全体の約77%に当たり、若手研究者の充実ぶりが如実に表れた大会となりました。その中から十数名の審査員によって選ばれたBPAには、児玉有紀さん(日本学術振興会特別研究員PD)の「クロレラの細胞内共生はミドリゾウリムシの細胞表面直下のトリコンストの配列を変化させる」と久富理さん(富山大・院理工・生物圏環境)の「ヒメゾウリムシの繊毛運動における軸系ダイニン軽鎖・中間鎖の機能的な研究」が輝きました。受賞者は2名でしたが、若手研究者一人ひとりの発表には、国の施策や世の風潮に迎合することなく、純粋な心で生命の真理を探究しなければならない、という魂の籠った強いメッセージが込められておりました。

一般講演では、全く別の意味でも新しい可能性が開かれました。韓国の研究者から一般講演での発表の打診を受け、藤島会長に学会規定に基づいた判断を仰いで、無事発表の機会を設定することが出来たことです。発表は、Dr. Mann Kyoon Shin, et al (Department of Biological Science, Univ. of Ulsan, Korea) Morphological and Molecular Characterization of a New Species of *Euplotes* (Ciliophora, Hypotrichida, Euplotidae) and Suggestion of a New Genus でした。Dr. Shinには懇親会にも参加していただき、非常にフレンドリーなひと時を持つことができました。

第二日目の午前に行われたシンポジウム「原生動物の多様性モニタリング」(座長: 洲崎敏伸)では、占部城太郎博士(東北大学大学院生命科学研究所)の「プランクトン遺骸・休眠卵を用いた湖沼の近過去復元と環境モニタリング」と本学会会員楠岡泰博士(滋賀県立琵琶湖博物館)の「The current situation of purported endemic protists in Lake Biwa, Japan」の講演がありました。研究室の実験系の中に立ち現れる生命像と自然環境の中から抽出される生命像という、次元の異なる視点での相互補完的な考察の重要性が議論されました。

また、二日目午後に行われた特別シンポジウム「原生動物学の公理系を考える」



(座長: 芳賀信幸)では、圧倒的な多様性を誇る原生動物集団からすべての原生動物に共通する普遍的な生命の形式を抽出するためには、どのような公理系を考えたいのか、という問題提起で議論が行われました。初めに座長から例として、ユークリッドの「幾何学原論」で設定されている公理・公準系が提示されましたが、公理系のとらえ方にも様々な考え方があることが自由討論の中から明らかになりました。このシンポジウムで行われたような、自由討論の中から問題の核心を抽出していくという方法は、現在ではあまりとられなくなっているように思います。研究者個々人の問題設定とその問題に対する自由なアプローチも重要ですが、原生動物学会として会員全員が取り組む共通の問題を設定することもまた、同じ程度に重要であるとの認識のもとに、今後も公理系を探索する努力は続けていきたいものだと思います。

大会が終わって、明らかになった反省点もありました。大会会場の案内が十分でなかったために、大学構内に入ってからスムーズに会場にたどり着くことが出来なかった。第一日目の講演が7時近くまでかかり、疲労や空腹で苦しんだ。二日目の終了時間が午後までかかったために、プログラムの最後まで参加できなかった、などです。特に、終了時間については、もう少し検討する余地があったのではないかと反省しております。

最後に、大会の準備から当日の運営まで、会員の皆様から沢山のアドバイスと力強い応援を頂きました。事務局一同、心より感謝申し上げます。来年は水戸・茨城大学で行われますが、益々活気に溢れ、世代を超えて自由に討論できるアカデミックな大会になりますよう、会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。



## 平成21年度 奨励賞 受賞者コメント

福田 康弘 (FUKUDA, Yasuhiro)

東北大学大学院 農学研究科・助教

日本原生動物学会奨励賞を授与いただくにあたり、私を推薦いただいた推薦者様、ならびに選出いただきました日本原生動物学会に深く感謝しております。今でも変わらない原生動物(あえて原生動物と書きます)に対する私の印象として、わずか一つの細胞で完結する生物であるにもかかわらず、なんと多様に変化に富んだ生物なのかという思いがあります。そもそも、私と原生動物の関係は、高校三年生で課題研究としてゾウリムシを扱ったことに端を発します。おそらく故樋渡宏一先生が書かれたであろうゾウリムシの培養法に関する文献から、私と原生動物の付き合いは始まりました。生物の進化と多様性を極めて不思議なものだと思う私にとって、細胞の体系や栄養様式、生活環等の原生動物が示すあらゆる形質は衝撃的であり、また非常に魅力的と感じ、是非とも原生動物を対象とした研究をしてみたいと考えていました。少々の紆余曲折の後、金沢大学へ入学した私は遠藤浩博士に出会い、ゾウリムシと再会しました。これは全く運命的であったと言わざるを得ません。現在は東北大学農学部在籍をおこなうことになりましたが、やはり研究対象として原生動物を扱うことができることを大変な幸運と感じています。今後はこの幸運を最大限に活用し、本受賞に恥じぬよう魅力的な原生動物の様々な謎を紐解く最大限の尽力を行うことを約束致します。



## 平成21年度大会 Best Presentation Award 受賞者コメント

児玉 有紀 (KODAMA, Yuuki)

高知大学 教育研究部・助教

私は、昨年の10月30日～11月1日に石巻専修大学で行われた第42回日本原生動物学会大会において、ベストプレゼンテーション賞(BPA)を受賞することができました。私の演題を選出して下さった評議員の方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。数多くの原生動物研究の専門家の方々が集まるこの学会でBPAを受賞することができ、とても光栄です。BPAが誕生して今回は2回目の大会でした。今後もこの分野で研究を継続し、原生動物学の発展に貢献していきたいと願っている私にとっては、BPAの受賞は必須だと思っていました。そのため、今回の発表の準備にはいつもより多くの時間を費やしました。この賞は若手の会員の研究意欲を更に高め、結果として石巻大会で発表されたような多数の質の高い演題を生み出す効果があると思います。今後の大会でも2回目の受賞が出来るように、研究を遂行していきたいと思っております。



久富 理 (KUTOMI, Osamu)

富山大学大学院 理工学教育部・博士後期課程2年

第42回石巻大会にてベストプレゼンテーション賞(BPA)を受賞しました。自分は賞には縁遠い人だから…なんて思っていたので、懇親会の冒頭で自分の名前が呼ばれたとき、まるで状況が理解できないまま表彰を受け、受賞のスピーチも、本当に自分なのだろうかかと半信半疑のまま行いました。その後、多くの先生方や学生の方々にたくさんのお祝いの言葉をかけられて、そこでようやく実感しました。賞をもらったこと以上にうれしかったのは、このような形で自分たちの研究が評価され注目されたこと、そして懇親会中に本会で発表した内容についてのことを聞かれるなど、多くの方が興味を持ってくれたことです。そういう意味で今回の受賞は、研究に対する自信や向上心と、多くの方と交流するきっかけを与えてくれた素晴らしい経験になりました。この経験を十分に生かして、今後自分の研究をさらに発展していきたいと思っております。最後に、BPA候補者として選考して下さった評議員の先生方、自分の研究において数多くの協力をしていただいた共同研究者の山口大学の堀学先生、そしてこれまで研究について親切に教えて下さった指導教官の野口宗憲先生にこの場を借りて深く感謝致します。



## 平成21年度 海外助成金受給者 国際学会参加報告

児玉 有紀 (KODAMA, Yuuki)

高知大学 教育研究部・助教

私は派遣費用を助成していただいたおかげで、昨年の8月末にブラジルのブジオスで開催された第13回国際原生動物学会議(ICOP-XIII)で、10分間の口頭発表を行うことが出来ました。まずはこの場をお借りして御礼申し上げます。ICOPは私にとって、とても思い出のある学会です。私は2005年に中国の広州市で開催されたICOP-XIIで、ベストプレゼンテーション賞を受賞することができました。この時の受賞と、たくさんの国外の研究者との出会いは私に大きな影響を与え、将来は研究者として生きたいという希望を、明確な目標へと変化させました。ブラジルの学会は、厳しい査読の中で口頭発表に選出されたこともあり、200回以上の練習をして本番を迎えました。結果は、私の発表の時には立ち見の方が出る程で、発表が終わった後も数人の研究者から褒め言葉の言葉をいただきました。素晴らしい景観の中で行われた学会で、練習通りの発表をすることができ、今回のICOPも一生の思い出になるような学会になりそうです。次の開催地のバンクーバーでも口頭発表が出来るように、研究を継続したいと思っております。



ブジオスの夕景

福田 康弘 (FUKUDA, Yasuhiro)

東北大学大学院 農学研究科・助教

晴れ渡る空、熱い太陽、これぞ南国!という先入観で臨んだブラジルは、良くも悪くも様々な点で裏切られてしまいました。学会会期中のブジオスは、初日と最終日こそ晴れたものの、全体として曇りの日が多く、肌寒く感じました。一方で、リオデジャネイロと全く異なり当初に懸念の多かった治安は問題なく、極めて良い印象を持った街でもありました。ブラジルのブジオスで開催された第13回国際原生動物学会議(International congress of protistology)は、初めて原生動物(protistology)の名称へ変更された国際会議であり、私にとって4年前に中国の広州にて開催された第12回会議に引き続いての参加となります。私個人の印象として、南米域での感染率が高い風土病に関わるトリパノソーマの研究が多く目立つ会議でしたが、カナダのSina Adl氏の発表をはじめ、原生動物の多様性に関わる極めて多様、かつ最新の情報を入手できる貴重な機会でした。過去の文献を読み解いた推量でしかありませんが、この約10年前から続く現在まで、原生動物の研究が極めて大きく発展している時期ではないかと私は思います。この激動の世界で研究の発表を行える貴重な機会を得るため、旅費の援助をいただいた事に深く感謝いたします。

## 日本分類学会連合 第9回総会報告

会場: 国立科学博物館

会期: 2010年1月9日(土) 10:30 - 12:30

加盟団体代表者として、藤島政博会長と島野が参加しました。会員の皆様に関係のある事項について報告いたします。なお、分類学会連合の詳細や最新のニュース、ニュースレターなどについては、日本分類学会連合 HP (<http://www.soc.nii.ac.jp/ujssb/index.html>) を参照いただきたいと思います。

・加盟団体数が、26 団体から 25 団体になった(日本甲虫学会と日本鞘翅学会が合併し、日本甲虫学会になったため)

・ニュースレター・ホームページ・データベースについて報告(前年度通り、今年度の特別な活動はない)

・国際動物命名規約日本語版のPDFを連合ホームページに掲載した(無料)。

・国際動物命名規約の修正案とその検討。「電子出版」を命名法上の公表と見なすための現行規約の「修正案」これが有効になる時期に来ているが、オープンアーカイブシステムが機能していないのでペンディング状態になっている。

・生物多様性(CBD)条約の遺伝子資源へのアクセスと利益配分(ABS)の動向については、2010年1月7日に動物系学会(松井正文連合代表)、植物系学会、微生物系学会、日本育種学会、大学における遺伝子資源に係わる知的財産所有権の専門家(各1名、計5名)が集められ、文科省でヒアリングを受けた。文科省の他、外務省と経産省など関係省庁の担当者も出席した。この件は、2010年に日本で開催されるCOP10の主要な議題であり、また大変に難しい議題であるが、議長国の日本としてまとめる義務がある。なお、研究者はこれまで学術研究目的で海外からの遺伝子資源を比較的自由に持ち込めたが、この議論の行方次第ではハードルが高くなり

## 生物多様性会議委員 島野 智之(宮城教育大)

持ち込みに際して国に譲渡事前同意書(PIC)や資源移転同意書(MTA)の写しの提出が義務づけられるかも知れない。

・COP10に向けての科学者と行政との最終調整が2010年3月21-23日で行われる。

・2010年度共催公開シンポジウムの開催については、愛知県、名古屋市の開催体系が変わってきたので共催を取り下げる。

・新代表に伊藤元己(東京大学大学院総合文化研究科教授、副代表に鶴崎展巨(鳥取大学地域学部教授)が就任した。

・2011年は、日本分類学会連合のシンポジウムが第10回目となるので、日本動物学関連学会連合の頃に実施したように2日間にわたってシンポジウムを企画することになった。詳細は執行部一任とした。

・ Consortium for Barcode of Life に連合として賛同する(サインアップする)。

・連合として今後、日本産の生物種数調査の再開、種名目録の作成、分類学者の分布・ディレクトリーを作成したい。博物館ネットの活用。標本数(どこにどれくらい、どんな標本が保管されているのか)の調査を実施していくことになった。これについては加盟団体の協力が不可欠である。本学会としても、日本産の生物種数調査の再開、分類学者の分布・ディレクトリーを作成などについては、協力していく体制作りが必要となるため、今後評議員会などへはかりたい。

・2010年度の分担金(10,000円)は、会計幹事の交替に伴い(川田伸一郎→長谷川和範)、振込口座が変更されるので、会計幹事より改めて加盟団体に連絡する。





若手の会 杉田 真希 前会長より ~若手の会の2年間を振り返って~



2009年10月30日(金)、石巻専修大学で若手の会が開かれました。講演して下さった先生方、若手研究者の方々、そしてご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。今年のワークショップは有殻アメーバ、珪藻、繊毛虫、アメーバと多彩な生き物を用いた最新の研究を耳にすることができたと思います。また、勉強会では山口大学の堀学先生にゾウリムシの RNAi について、開発当時の苦労話やテクニカルなことも交えて非常に具体的にお話しいただきました。遺伝子を実際に扱っている方もそうでない方も、とても勉強になったのではないかと思います。私が若手の会の運営に関わるようになってから、3年が経ちました。私の目標は、若手の方に他分野を紹介することで広い視野を持ってもらうことでした。今まで本会ではあまり優占することのなかった微細藻類の研究者や、技術的な刺激として科学番組の制作会社の先生をお呼びしたりもしました。若手の会は、本会とはまた違った刺激をもたらす存在になれたと思っています。私たちのこうした活動が、補助金の増額という形で評価されたことも喜ぶべきことだと思います。最後に、この2年間ともに活動してきた、現会長の西上幸範さんをはじめ、末友靖隆さん、久富理さん、福田康弘さん、とんでもなく人使いが荒くトップダウンな運営方法だったと思いますが、ちゃんとついてきて下さってありがとうございます。この場を借りて深くお礼申し上げます。そして、これからもよろしくお願いします。

会長就任のごあいさつ

若手の会会長 西上 幸範



若手の会会長を務めさせていただく兵庫県立大学の西上幸範です。いきなりですが、私はアメーバを研究しています。アメーバの面白いところは「ゴチャ混ぜ」だと私は思います。アメーバは定まった構造を持たず、一見、細胞膜という袋の中にオルガネラを乱雑に詰め込んだ塊にしか見えません。さらに詰め込まれたオルガネラでさえアメーバ運動に伴い細胞内を絶えず動き回っています。まさに「ゴチャ混ぜ」の生物です。細胞内では様々な物質が衝突し相互作用していますが、真剣に観察しても全く理解できません。しかし、ふと気づくと餌を捕まえたり、悪い環境から逃げたりと賢く正確に制御されていたりもします。私は若手の会もアメーバのようにしたいと思っています。先生方から見ると、未熟で無鉄砲なことばかりする若手研究者かもしれません。しかしそんな人たちが「若手の会」という細胞膜に詰め込んで「ゴチャ混ぜ」にしておく。すると、衝突して、相互作用して・・・ふと気づくと新しい、すばらしいものが生まれていたという状況になればと思います。今年も若手の会役員の皆さんと一緒に頑張りますので宜しくお願いします。

2010年度 若手の会役員

- 会長 西上 幸範 (兵庫県立大学)
- 役員 福田 康弘 (東北大学)
- 役員 久富 理 (富山大学)
- 役員 涌井 茜 (茨城大学)
- 役員 早川 昌志 (神戸大学)
- 役員 芝野 郁美 (京都大学)
- 役員 岡 唯理 (宮城教育大学)
- 役員 末友 靖隆 (ミクロ生物館)

よろしくお願い致します！

2010年4月1・2日に山口県岩国市にて開催された“春の若手研究集会2010”は、おかげさまで大盛況のうちに幕を閉じました。この模様は若手の会ホームページならびに次号ニューズレターにてご報告致します。お楽しみに！

原生動物学関連の学会開催情報

第18回国際進化原生生物学会 (ISEP)のご案内

今夏、下記のように国際進化原生生物学会 (International Society for Evolutionary Protistology: ISEP) の第18回大会が金沢で開催されます。

ISEP の大会は、原生動物を中心とした真核生物の進化を分子、細胞、形態等のさまざまな側面から議論する国際学会として、2年ごとに世界各地を巡って開催されています。2010年は7月2～7日(6日間)に石川県金沢市にある「石川県立美術館」で開催されることになっています。日本が誇る古都を舞台に、アートとサイエンスにとっぴりと浸かる一週間になれば幸いです。

ISEP の大会に参加した人の多くの方が「参加した学会の中で最も刺激的な学会」だと口を揃えて言います。この学会は比較的小さな学会でありながら、“そのとき世界で最もアクティブな進化原生生物学研究者が集結し、最先端で中身の濃い議論ができる”、“会場が1つなので参加者はすべての研究発表を聞くことができる”など、様々な魅力的な特色があります。

また、ISEP では、原生動物全体を対象としているため、従来の原生動物学、藻類学、菌学、寄生虫学など様々な分野からの発表があります。ここでは、最近の Tree of Life が示すように、これらの分野間の垣根は全くありません。今回の大会は、アジア初の ISEP となりますが、アジアにおいても垣根のない ISEP の精神を踏襲したすばらしい大会にしたいと考えております。皆様お誘い合わせの上、ご参加いただければ幸いです。

記

大会概要

名称 : 18th Meeting of International Society for Evolutionary Protistology (ISEP XVIII)

日時 : 2010年7月2日(金)～7月7日(水)

会場 : 石川県立美術館 (石川県金沢市)

参加申込 : ISEP XVIII ホームページ (http://homepage.mac.com/protists/index.html) の左メニューにある「Registration」からお願い致します。お早めにご登録ください。多数のご参加をお待ちしております。

大会 HP : http://homepage.mac.com/protists/index.html

学会 HP : http://www.isepsociety.com/

以上

金沢大学自然科学研究科 遠藤 浩  
筑波大学生命環境科学研究科 石田 健一郎

事務局からのお知らせ

※ メールアドレスを変更した会員は、速やかに事務局まで届け出てください。宜しくお願い申し上げます。

学会賞・奨励賞の推薦について

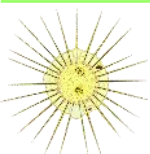
会員の皆様からの学会賞と奨励賞候補者の推薦をお願い致します。推薦の締め切り：6月末日

提出書類・提出先

学会賞候補者は必要書類(履歴書・研究業績リスト・会員歴・主要論文別刷5編)を各3部用意し、推薦者を経て会長へ提出して下さい。奨励賞候補者は必要書類(履歴書・本学会での発表リスト・会員歴・論文別刷等参考になるもの)を各3部用意し、推薦者を経て会長に提出して下さい。推薦者は上記書類に加えて推薦理由書をつけて下さい。なお、奨励賞候補者の応募資格は6月末日で満35歳以下の方で、自薦も可能です。書類での応募の他に、今年からは、必要書類のpdfファイルを電子メールに添付して申請する方法でも受け付けます。

学会賞と奨励賞に関する学会の内規は当学会のホームページと原生動物学雑誌に明記してあります。また、これに関する評議員会の内規の見直しに関する申し合わせは、原生動物学雑誌第42巻第1号のp.98をご覧ください。

応募書類の提出先：〒753-8512 山口市吉田1677-1 山口大学大学院理工学研究科環境共生系専攻 藤島政博 fujishim@yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-933-5712 (ご提出後、3～4日経過しても受領の回答が電子メールで申請者に届かなかった場合は、お知らせください。)



編集・刊行 日本原生動物学会 編集局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学内 (編集委員長: 石田 正樹)  
Tel / Fax: 0742-27-9198 E-mail: masaki@nara-edu.ac.jp

ニューズレター編集担当 末友 靖隆 (岩国市立ミクロ生物館)

ニューズレター18号は学会ホームページからもダウンロードできます。非会員の方への宣伝等にぜひご活用ください。  
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsproto/journal/nl-18/NL18.pdf